

第6章 成果の発信・発表

本業務の成果が、企業やNPO、政府・自治体などに有効に活用されるよう、各種の発信・発表を実施した。具体的には以下3点の活動を実施した。

1. 報告書及び報告書の要約版の作成

本業務の仕様に則り、分析の結果を本報告書及び報告書要約版を作成した。

- 報告書：Microsoft Word 版
- 報告書要約版：Microsoft Power Point 版



図 24 報告書要約版イメージ

II.「環境経済情報ポータルサイト」の改修

「環境ビジネスの先進事例集」という Web サイトを作成し、本業務の成果物を公開した。業務効率化のために、昨年度の枠組みを活用しつつ、本年度に分析した企業のコンテンツを作成した。



図 25 Web サイト「環境ビジネスの先進事例集」

http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/B_industry/index.html

Ⅲ. シンポジウム・セミナーの開催

本業務で作成した成果や企業・団体とのネットワークを活用して開催するオンラインシンポジウムを1回、オンラインセミナーを2回開催した。これらの情報発信を通して、本業務の成果に対する認知・理解が広がり、環境ビジネスに興味を持つ企業、そこで成功する企業が増えることが期待される。

シンポジウム

1. 開催趣旨

地域循環共生圏の創造に取り組む企業の先進事例を紹介することで、概念を広く普及・周知し、地域循環共生圏のプレイヤーを増やすきっかけを作る。

2. 開催概要

- 日時 : 令和4年3月10日(木) 13:00～16:00
- 開催形式 : オンライン開催(利用ツール: Zoom ウェビナー)
- 配信場所 : 株式会社野村総合研究所 東京本社
(東京都千代田区大手町 1-9-2 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 29F)
- 主催 : 環境省
- プログラム

時間	内容	登壇者
13:00～	開会	司会案内
13:05		
13:05～	環境省講演	上田 康治
13:20	「脱炭素の取組で進める地域の活性化」	(環境省 大臣官房 地域脱炭素推進総括官)
13:20～	企業講演(1)	小出 大二郎
13:40	「豊島が取り組む国内サステナブルプロジェクトについて」	(豊島㈱ 営業企画室 オーガビッツプロデューサー)
	企業講演(2)	
13:40～	「発酵技術を活用した資源循環:ファーマンステーションの	酒井 里奈
14:00	未利用資源 再生・循環パートナーシップ	(㈱ファーマンステーション 代表取締役)
14:00～	企業講演(3)	松浦 英樹
14:20	「廃棄物処理を軸とした地域循環共生圏」	(㈱富山環境整備 代表取締役)

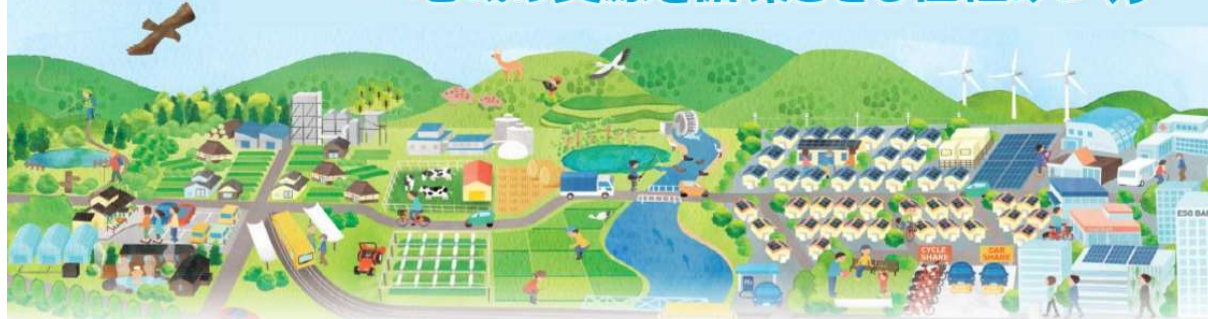
14:20～	企業講演（４）	野崎 衛
14:40	「デジタルプラットフォーム POOL を活用した、プラスチック資源循環デザインについて」	（レコテック㈱ 代表取締役）
14:40～	休憩	
14:45		コーディネーター： 岡村 幸代 （環境省大臣官房環境計画課環境経済政策調査室長）
14:45～	パネルディスカッション	パネリスト：
15:45	「ローカル SDGs ビジネス推進に必要な要素とは」	ご登壇企業の皆さま 藤田 香（日経 BP 日経 ESG 編集シニアエディター／東北大学大学院生命科学研究科教授） 百瀬 則子（ワタミ株式会社 SDGs 推進本部長／一般社団法人中部 SDGs 推進センター副代表） 八木 裕之 （横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院 教授）
15:45～	閉会・総括	
15:55		
15:55～	閉会	司会
16:00		

● その他

- 質問は、事前申込時に受付を行い、講演・パネルディスカッションの中で可能な限り反映した。
- 講演資料は、シンポジウム開催後に申込者へ配布した（登壇者の配布許可が取れたもののみ）。同様に、登壇者の配信許可が取れたもののみ、後日、動画配信を実施した。

ローカルSDGsのデザイン

～地域の資源を循環させる仕組みづくり～



日時 2022年3月10日（木）13:00～16:00

場所 : オンライン開催（ZOOMウェビナー）

主催 : 環境省

※本シンポジウムは、環境省「環境ビジネスの振興方策検討事業」の一環として開催するものです

参加費 : 無料

定員 : 500名

申込用QRコード
※ 3/8(火)まで



いま知るべきSDGs。ローカル×ビジネス×ソーシャル

本シンポジウムでは、環境省による基調講演のほか、「地域循環共生圏（ローカルSDGs）」の先進的な取り組みをご紹介しますとともに、有識者や企業と「地域循環共生圏（ローカルSDGs）」ビジネスの創造に必要な視点や要素等についての議論を行い、これからの「資源循環」のあり方を考えます。



登壇企業・登壇者紹介

豊島株式会社
営業企画室 オーガビッツプロデューサー
小出 大二郎



- ・ 廃棄予定食材を染料として衣料品などに再活用するプロジェクト「FOOD TEXTILE」など、サステナブルな事業を展開しています。
- ・ ファッションロスの削減やサステナブル素材の活用など、新たな取り組みにも挑戦し、「循環型ファッション」の実現をめざしています。

株式会社ファームステーション 代表取締役
酒井 里奈



- ・ 「Fermenting a Renewable Society（発酵で楽しい社会を!）」をテーマに、未利用資源をサステナブルな原料や商品へ再生・循環させる独自の発酵技術を提供、商品開発に取り組んでいます。
- ・ また、食品・飲料工場の製造過程で生まれる副産物を活用し、新たな高付加価値の商品を生み出す事業開発を、企業との共創を通じて取り組んでいます。

株式会社富山環境整備 代表取締役
松浦 英樹



- ・ 廃棄物処理において、資源のリサイクル原材料化に取り組むだけでなく、処理施設で発生する電気や熱を農業生産現場に活用する、アグリ事業にも挑戦しています。
- ・ 資源としての可能性を秘めた廃棄物を最大限活用し、地域との共生、田園風景の継承をめざしています。

レコテック株式会社 代表取締役
野崎 衛



- ・ 都市資源を循環利用するために、静脈サプライチェーンを「見える化」、資源の発生から製造業者への供給までを一括管理する資源循環プラットフォーム「POOL」を提供します。
- ・ 静脈資源のサプライチェーンの設計をサポートすることで、循環型社会へ貢献します。

図 26 シンポジウム概要・周知チラシ（表面）

ローカルSDGsのデザイン オンラインシンポジウム

2022
3/10 (木)
13:00～16:00

日時：令和4年3月10日（木）13:00～16:00
場所：オンライン開催
定員：500名
主催：環境省 ※環境省「環境ビジネスの振興方策検討事業」の一環です
参加費：無料

プログラム



上田 康治



小出 大二郎



酒井 里奈



松浦 英樹



野崎 衛

13:05～13:20

基調講演「脱炭素の取組で進める地域の活性化」

上田 康治（環境省 大臣官房 地域脱炭素推進総括官）

13:20～14:40

話題提供

i) 「豊島が取り組む国内サステナブルプロジェクトについて」

小出 大二郎（豊島株式会社 営業企画室 オーガニックプロデューサー）

ii) 「発酵技術を活用した資源循環：ファームステーションの未利用資源 再生・循環パートナーシップ」

酒井 里奈（株式会社ファームステーション 代表取締役）

iii) 「廃棄物処理を軸とした地域循環共生圏」

松浦 英樹（株式会社富山環境整備 代表取締役）

iv) 「デジタルプラットフォームPOOLを活用した、プラスチック資源循環デザインについて」

野崎 衛（レコテック株式会社 代表取締役）

14:45～15:45

パネルディスカッション「ローカルSDGsビジネス推進に必要な要素とは」

コーディネーター

岡村 幸代（環境省 大臣官房 環境計画課 環境経済政策調査室長）

パネリスト

ご登壇企業の皆さま

藤田 香（日経BP日経ESG編集シニアエディター／東北大学大学院生命科学研究科教授）

百瀬 則子（ワタ株式会社SDGs推進本部長／一般社団法人中部SDGs推進センター 副代表）



藤田 香



百瀬 則子

15:45～15:55

閉会挨拶

八木 裕之（横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院 教授）



八木 裕之

お申し込み

【オンラインシンポジウムの申込方法】

・以下専用フォームより、お申込みください（3/8（火）申込〆切）

URL：https://www.e-toroku.jp/ticket/user/form/index?form_id=localsdgs202203

※スマホの方は右のQRコードを読み込んでください



お問い合わせ先

シンポジウム内容に関するお問い合わせ

シンポジウム事務局/株式会社野村総合研究所
サステナビリティ事業コンサルティング部 向井・由藤・今泉
E-mail：localsdgs2022@nri.co.jp

Web会議ツール Zoomに関するお問い合わせ

株式会社イベント・レンジャーズ
E-mail：localsdgs202203@event-rangers.jp

（※）「地域循環共生圏」とは、各地域が地域の活力を最大限発揮しながら、持続可能な自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて地域同士が資源を補完し支え合うことにより、環境・経済・社会を統合的に向上させるという考え方であり、地域でのSDGsの実践（ローカルSDGs）でもあります。



図 27 シンポジウム概要・周知チラシ（裏面）

セミナー（#1 地域エネルギー）

1. 開催趣旨

地域循環共生圏の創造に取り組む企業の先進事例を紹介し、意見交換の場を設けることで、事業推進のヒントを得るきっかけを作る。

2. 開催概要

- 日時 : 令和4年2月9日（木）17:00～19:00
- 開催形式 : オンライン開催（利用ツール：Zoom ミーティング）
- 配信場所 : 株式会社野村総合研究所 東京本社
(東京都千代田区大手町 1-9-2 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 29F)
- 主催 : 環境省
- プログラム

時間	内容	登壇者
17:00～	開会	司会案内
17:05		
17:05～	挨拶・冒頭説明	岡村 幸代
17:10		(環境省大臣官房環境計画課環境経済政策調査室室長)
17:10～	講演セッション（1）	加藤 貴之
17:35	「レジリエントな観光地域の創出へ」	(株式会社元気アップつちゆ 代表取締役 CEO)
17:35～	講演セッション（2）	高橋 正樹
18:00	「再エネによる地域内循環の創造とスローシティへの挑戦」	(気仙沼地域エネルギー開発株式会社 代表取締役社長)
		猪飼 幸輝
18:00～	講演セッション（3）	(株式会社ビオクラシックス半田
18:25	「地域バイオマス×地域経済循環」	サーキュレーション事業本部 執行役員事業本部長)
18:25～	案内	司会案内
18:30		
18:30～	質問交流セッション	全体的場で、登壇者間・視聴者間での質疑・意見交換を実施
19:00		

- その他
 - 質問は、講演セッション中はチャットにて受付を行い、講演後や質問交流セッションにて登壇者に返答いただいた。
 - 講演資料は、セミナー開催後に申込者へ配布した（登壇者の配布許可が取れたもののみ）。同様に、登壇者の配信許可が取れたもののみ、後日、動画配信を実施した。

地域循環共生圏（ローカルSDGs）オンラインセミナー ～地域資源を利用したエネルギーの地産地消～



ご登壇企業

- 株式会社元気アップつちゆ
- 気仙沼地域エネルギー開発株式会社
- 株式会社バイオクラシックス半田

加藤 貴之 様 **高橋 正樹 様** **猪飼 幸輝 様**

2022
2 / 9 (水)
17:00～19:00

場所 : オンライン (Zoom) ※参加の手順を別途ご案内いたします
主催 : 環境省
対象者 : 本テーマに関心のある企業・行政・金融機関
参加費 : 無料
定員 : 100名



木質・廃棄物系バイオマスや地熱など、地域の再エネ資源に着目！
最前線で再エネ事業を推進する企業の皆さまから、事業立上げ期の「苦労」や、地域にあるヒト・モノ・カネを活かした事業推進の「工夫」をお話頂きます！

プログラム

17:00～17:10
挨拶・冒頭説明
岡村 幸代（環境省 大臣官房 環境計画課 環境経済政策調査室 室長）

17:10～18:25 講演セッション ※講演順は変更の可能性有り
講演①「レジリエントな観光地域の創出へ」
加藤 貴之（株式会社元気アップつちゆ 代表取締役 CEO）
講演②「再エネによる地域内循環の創造とスローシティへの挑戦」
高橋 正樹（気仙沼地域エネルギー開発株式会社 代表取締役社長）
講演③「地域バイオマス×地域経済循環」
猪飼 幸輝（株式会社バイオクラシックス半田
サーキュレーション事業本部 執行役員事業本部長）

18:30～19:00 質問セッション ※本セミナーは、環境省「環境ビジネスの振興方策検討事業」の一環として開催するものです

お申込み

【申し込み方法】 以下専用フォームより、下記3点をご記入ください。
<https://cu-nri.zoom.us/meeting/register/tJMscOCgrT4tGtQzVD1qhDjCGEbFK-IQL23h>

ア) お名前
イ) メールアドレス
ウ) ご所属 等

※スマホをご利用の方は右記
QRコードから専用フォームへ
アクセスするのが便利です。



お問合せ先

【申込期日】 令和4年2月7日(月) ※定員に達し次第、締め切らせていただきます。
【お問合せ】 株式会社野村総合研究所 サステナビリティ事業コンサルティング部 向井・由藤・今泉
E-mail: localsdgs2022@nri.co.jp

図 28 セミナー（#1 地域エネルギー）概要・周知チラシ（表面）

地域循環共生圏（ローカルSDGs）オンラインセミナー ～地域資源を利用したエネルギーの地産地消～

登壇企業・登壇者紹介

元気アップつちゆ



加藤 貴之 様



温泉を活かして、発電事業から養殖事業まで

* 福島県土湯温泉において、地域資源である「温泉」「温泉熱」を軸に、地熱発電事業やエビ養殖事業などの多彩な事業で、地域復興に尽力。有休資産を活用した販路創出を目指す更なる計画を進めるなど、まちづくり事業を展開します。

* 本セミナーでは、創業2代目・現代表として新たな計画を先導されている、**加藤 貴之さま**にご登壇をいただきます！

参考）元気アップつちゆ様ウェブサイト（<https://genkiuptcy.com/>）

気仙沼地域エネルギー



高橋 正樹 様



木材を軸に、地域の自給力・創富力を高める

* 宮城県気仙沼市において、市内の森林資源を活用した木質バイオマス発電により、林業再生や雇用創出に注力。さらに、地域内の経済循環を目的に、木材の買取では地域通貨を発行する工夫も行っています。

* 本セミナーでは、創業者・現代表として地域主体と連携しながら事業を推進している、**高橋 正樹さま**にご登壇をいただきます！

参考）気仙沼地域エネルギー開発様ウェブサイト（<http://chiiki-energy.co.jp/>）

ビオクラシックス半田



猪飼 幸輝 様



生活の中で出る何気ないものを、地域のエネルギーに

* 愛知県半田市と共に、「半田市バイオマス産業都市構想」の具現化に取り組んでいます。畜産・食品廃棄物等のバイオマス資源を、電気・熱・CO₂等のエネルギーや肥料に変え、近隣農地へ還元する地域循環モデルづくりを進めています。

* 本セミナーでは、本事業の責任者として事業の構想段階から関わられている、**猪飼 幸輝さま**にご登壇をいただきます！

参考）ビオクラシックス半田様ウェブサイト（<https://biokurasix.jp/>）

図 29 セミナー（#1 地域エネルギー）概要・周知チラシ（裏面）

セミナー（#2 金融）

1. 開催趣旨

地域循環共生圏の創造に取り組む企業の先進事例を紹介し、意見交換の場を設けることで、事業推進のヒントを得るきっかけを作る。

2. 開催概要

- 日時 : 令和4年3月11日（金）16:00～18:00
- 開催形式 : オンライン開催（利用ツール：Zoom ミーティング）
- 配信場所 : 株式会社野村総合研究所 東京本社
(東京都千代田区大手町 1-9-2 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 29F)
- 主催 : 環境省
- プログラム

時間	内容	登壇者
16:00～	開会	司会案内
16:05		
16:05～	挨拶・冒頭説明	岡村 幸代
16:10		(環境省大臣官房環境計画課環境経済政策調査室室長)
16:10～	講演セッション(1)	山口 孝司 (株式会社 AGRIST CFO)
16:50	「持続可能な農業の実現に向けた地域金融 機関の支援について」	野村 公治 (株式会社宮崎太陽キャピタル 代表取締役) 清藤 佑樹 (宮銀ベンチャーキャピタル株式会社 ファンドマネージャー)
16:50～	講演セッション(2)	松本 知之 (Rennovater 株式会社 代表取締役社長)
17:30	「社会課題解決型ベンチャー企業と地域金融 機関の支援について」	国本 丈弘 (株式会社京信ソーシャルキャピタル 代表取締役) 野田 泰也 (京都信用金庫 田辺支店)
17:30～	案内	司会案内
17:35		
17:35～	質問交流セッション	取り組み別に2つのブレイクアウトルームを設け、視聴者が入室ルームを自分で選択できる形にしたうえで、登壇者間・視聴者間での質疑・意見交換を実施
18:00		

- その他
 - 質問は、講演セッション中はチャットにて受付を行い、講演後や質問交流セッションにて登壇者に返答いただいた。
 - 講演資料は、セミナー開催後に申込者へ配布した(登壇者の配布許可が取れたもののみ)。同様に、登壇者の配信許可が取れたもののみ、後日、動画配信を実施した。

地域循環共生圏（ローカルSDGs）オンラインセミナー

～金融機関から見た地域ビジネスの魅力～

2022
3 / 11 (金)
16:00～18:00

場所 : オンライン (Zoom)
主催 : 環境省
対象者 : 本テーマに関心のある企業・行政・金融機関
参加費 : 無料
定員 : 100名

申込用QRコード
※ 3/10(木)まで



※本セミナーは、環境省「環境ビジネスの振興方策検討事業」の一環として開催します



地域課題の解決に取り組む企業に対して**金融機関の果たす役割に着目！**
企業側からは**資金獲得を中心に、事業立上・推進期の課題や工夫ポイントを、**
金融機関側からは**融資・投資先発掘から資金援助に至るまでの取組をお話頂きます！**

登壇企業・登壇者紹介



株式会社AGRIST
CFO 山口 孝司

* AI・ロボットを活かして、人材不足や収穫量改善などの“農業課題”解決に挑む、宮崎県児湯郡新富町発のベンチャー企業です。農場を開発拠点に、農家と連携したロボット開発を行っています。

参考) AGRISTWEBサイト (<https://agrist.com/>)



株式会社宮崎太陽キャピタル
代表取締役 野村 公治

* 企業の付加価値向上による地域経済活性化を目指し、創業支援・成長支援に重きを置く、宮崎太陽銀行グループのVCです。地域経済活性化に貢献する観点から、AGRIST株式会社に投資を行っています。

参考) 宮崎太陽キャピタルWEBサイト (<https://www.taiyocapital.co.jp/>)



宮銀ベンチャーキャピタル株式会社
ファンドマネージャー 清藤 佑樹

* 地域や事業領域、事業フェーズを問わず、明確なEXIT戦略を持つ企業を支援する、宮崎銀行グループのVCです。AGRIST株式会社へ投資を行っています。

参考) 宮銀ベンチャーキャピタルWEBサイト (<https://www.miyaginvc.jp/>)



Rennovater株式会社
代表取締役社長 松本 知之

* 行政だけでは解決困難な“住宅困窮者問題”解決に挑む、京都府京田辺市のベンチャー企業です。

* 投資家や金融機関から調達した資金をもとに、空き家や築古物件を安価で購入（又は賃貸）・再生した上で、生活困窮者に低廉な価格で提供しています。

参考) RenovaterWEBサイト (<https://rennovater.co.jp/>)



株式会社京信ソーシャルキャピタル
代表取締役 国本 丈弘

* 2021年9月に京都信用金庫、及び子会社ベンチャーキャピタルである株式会社京信ソーシャルキャピタルが共同で「京信イノベーションC2号ファンド」を設立。

* 地域経済の活性化や社会課題解決に資するベンチャー企業を支援。同ファンドからの投資第1号案件としてRennovaterへ投資を実施しています。

参考) 京信ソーシャルキャピタル設立リリースPDF
(<https://www.kyoto-shinkin.co.jp/whatsnew/pdf2020/n20-1220.pdf>)

参考) 京都信用金庫WEBサイト (<https://www.kyoto-shinkin.co.jp/>)



京都信用金庫
田辺支店 野田 泰也

図 30 セミナー（#2 金融）概要・周知チラシ（表面）

地域循環共生圏（ローカルSDGs）オンラインセミナー ～金融機関から見た地域ビジネスの魅力～

2022
3 / 11（金）
16:00～18:00

場所：オンライン（Zoom）
主催：環境省
対象者：本テーマに関心のある企業・行政・金融機関
参加費：無料
定員：100名

プログラム

16:00～16:10

挨拶・冒頭説明

岡村 幸代（環境省 大臣官房 環境計画課 環境経済政策調査室長）

16:10～17:30 講演セッション

※講演順は変更の可能性有り

講演①「持続可能な農業の実現に向けた地域金融機関の支援について」

山口 孝司（株式会社AGRIST CFO）

野村 公治（株式会社宮崎太陽キャピタル 代表取締役）

清藤 佑樹（宮銀ベンチャーキャピタル株式会社 ファンドマネージャー）

講演②「社会課題解決型ベンチャー企業と地域金融機関の支援について」

松本 知之（Rennovater株式会社 代表取締役社長）

国本 丈弘（株式会社京信ソーシャルキャピタル 代表取締役）

野田 泰也（京都信用金庫 田辺支店）

17:30～18:00 交流・対話セッション

※取り組み別に二つのルームを設定して、
個別に質問できる場を設ける予定です！

お申込み

以下専用フォームより、お名前、ご所属、メールアドレスをご記入ください。

<https://cu-nri.zoom.us/meeting/register/tJAtd-6pqzgoGNZ0gzeE833k3qFCDvdBzNdr>

【申し込み締切】令和4年3月10日（木）

※定員に達し次第、締め切らせていただきます。

※スマホをご利用の方は右記
QRコードから専用フォームへ
アクセスするのが便利です。



お問合せ先

株式会社野村総合研究所 サステナビリティ事業コンサルティング部 向井・由藤・今泉
連絡先E-mail:localsdgs2022@nri.co.jp

図 31 セミナー（#2 金融）概要・周知チラシ（裏面）

IV. 今後求められる発信活動

本業務で実施した発信活動に対する視聴者の感想を通して、「地域循環共生圏(ローカル SDGs)」などの構想について、事業者等が検討のきっかけを得たり、先進事例の情報収集をしたりする際に、オンライン形式のイベントを開催することは有用だと考えられる。また、当日のコンテンツは、一部を除いて動画配信を行うため、更に多くの視聴者を期待できる。

一方で、オンライン形式のイベントについて、視聴者にとっては情報発信が一方通行だと受け止められる可能性もあるため、取り組みに対する質問を受ける場を設けるなどの工夫や、場合によっては、オンラインではなくリアルで事業者同士が繋がるきっかけを得る場を設けることが求められると考えられる。

シンポジウムに対する感想

1. 開催結果

- 申込者数：286 名
- 視聴者数：約 180 名

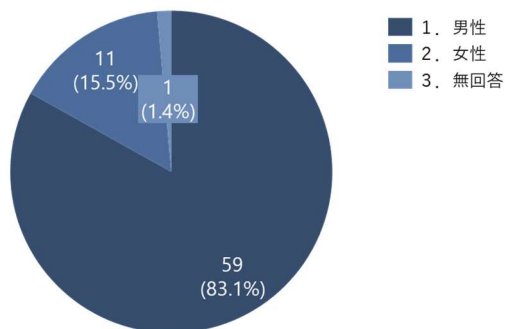
2. アンケート結果

- 結果概要
 - シンポジウムには、20 代～60 代、および関東在住の人を中心に、幅広い年代および地域の人々にご視聴いただけたと考えられる。
 - 「地域循環共生圏」についてはシンポジウム参加前からおよそは認知している人が多かったが、シンポジウム開催後では「地域循環共生圏」について 9 割近くの人々が理解できたとの意見であった。
 - プログラム全体の満足度についても、8 割近くの人々が満足できたとの意見であった。
- 集計概要
 - 集計日時：令和 4 年 3 月 15 日（火）17：00 時点
 - 回答数：71

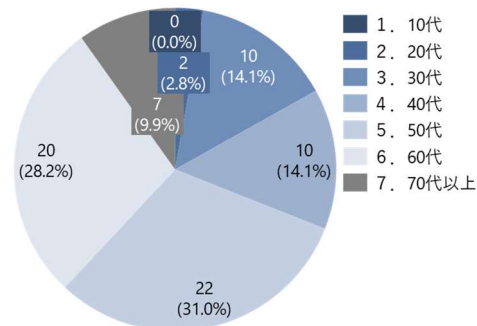
● 質問及び回答結果詳細

I. あなた自身について教えてください

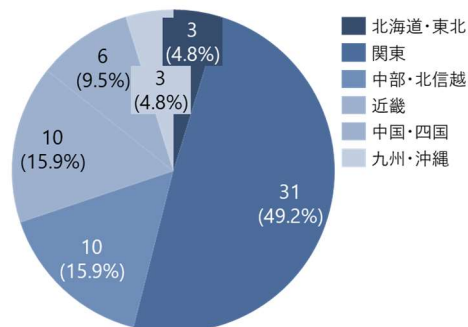
➤ 性別 (N=71)



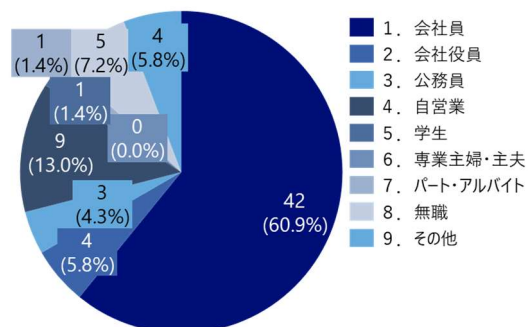
➤ 年代 (N=71)



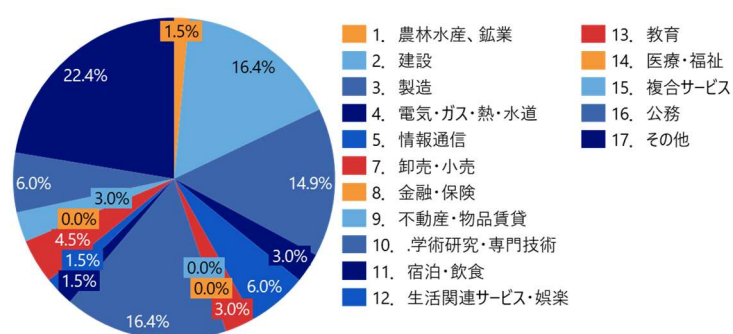
➤ 居住地 (N=63)



➤ 所属 (N=69)

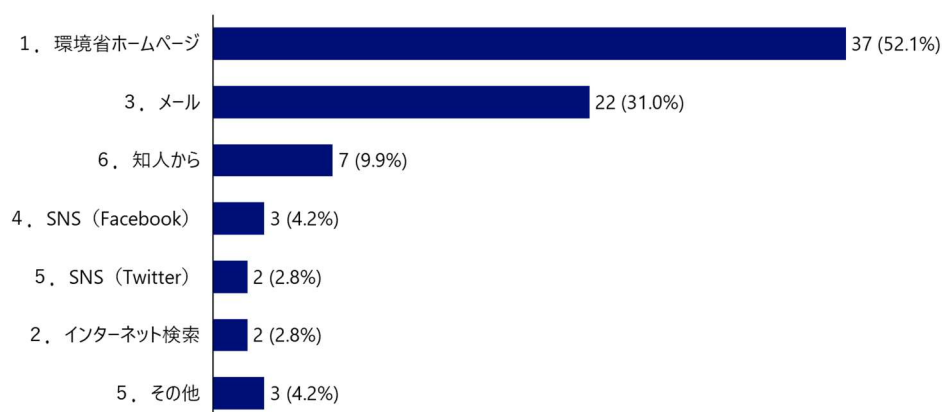


➤ 業種 (N=67)

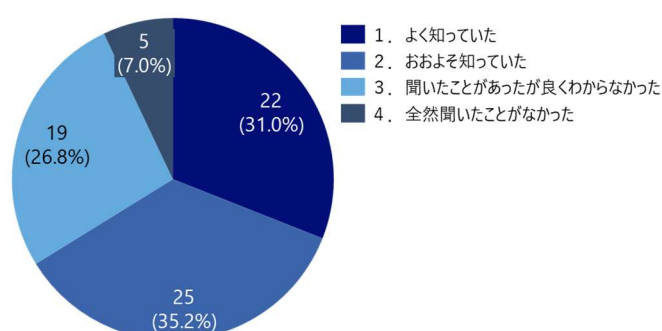


II. ご参加のきっかけについてお尋ねします

➤ 今回のシンポジウムを何で知りましたか？（複数回答可） (N=71)

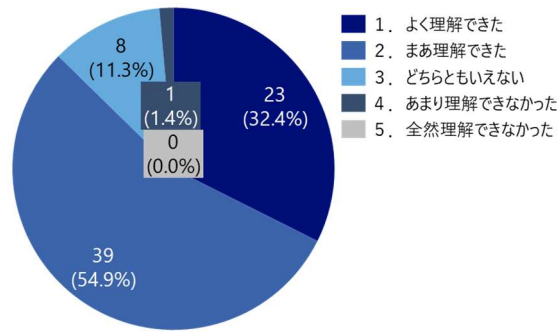


➤ 参加前、「地域循環共生圏」についてご存知でしたか？ (N=71)



III. 内容の感想や満足度について教えてください

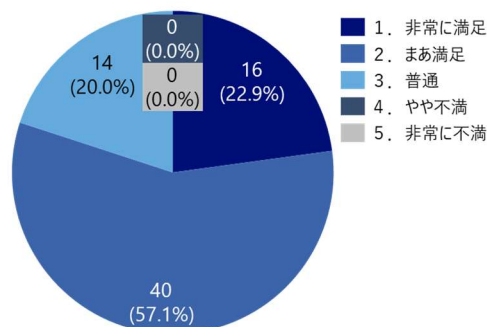
➤ 参加後、「地域循環共生圏」について理解が深まりましたか？理由とあわせて教えてください。(N=71)



➤ 主な理由

- ✧ 具体例を知ることができた。講演を聞くことで理解が深まりました。
- ✧ 発表事例が素晴らしかった。4件の事例が非常にわかりやすく共感できた。
- ✧ ひとくちに地域循環共生圏といっても色々な見方があったことがわかった。
- ✧ 発表が地域に根差しているものが多かった。実際の地域とのコミュニケーション事例を伺えたため。
- ✧ 今まで身近に感じていなかったため、いろいろな取組が進んでいることがわかった。

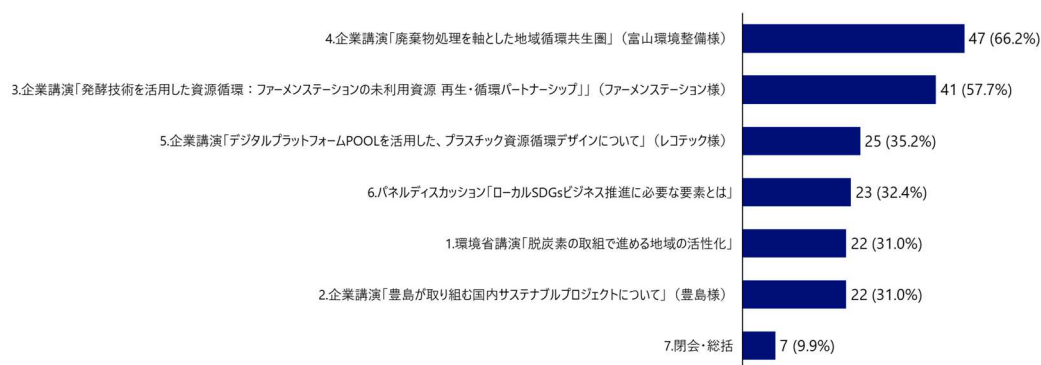
➤ プログラム全体の満足度はいかがでしたか？理由とあわせて教えてください。(N=71)



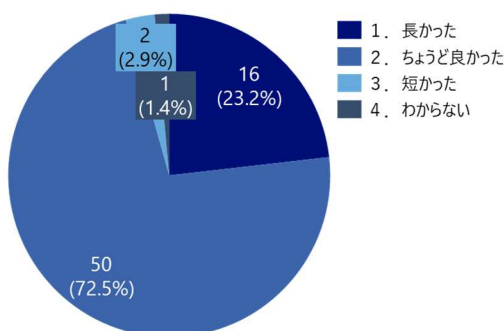
➤ 主な理由

- ✧ 活動内容が分かりやすく説明されていたと思う。
- ✧ 机上の話でなかったため。企業の方の生の声は参考になる。
- ✧ 地域と連携した事例は参考になる。ディスカッションで深堀ができたこと。パネルディスカッションで発表者以外に二人の有知識者が質問し、深堀したことがよかった。パネルディスカッションが良く深堀ができていた。
- ✧ 一社で取り組むのは限界があり、利害関係者の連係、協力が必要だと、改めて認識した。
- ✧ 発表者の対象領域が多様でしかも多面的な活動が参考になった。
- ✧ どうしても一方通行の情報をもらった感じになった。事例だけでは不満が残った。

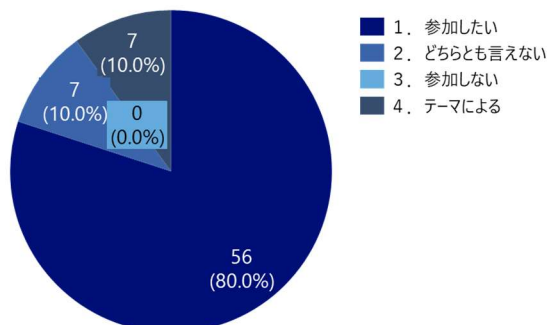
➤ 特に興味を持った、満足度の高かったプログラムは何ですか？（複数回答可）（N=71）



➤ プログラム全体の長さは適切でしたか？（N=88）



➤ 今後も同様のシンポジウムを開催したら、参加したいですか？（N=88）



IV. その他、参考になったことやご要望・ご感想などあれば、ご自由にお書きください

- なかなか他の地域の情報は得にくいですが ZOOM 環境ならば参加しやすい。
- 子供達や会社の後輩たちの為に今何をするべきか考えるきっかけになる。
- SDGs に取り組み始めたところなので、経験者の体験談など、情報収集を図りたい。
- 知識向上ではあっても業務上直接かつ即効で役に立つかどうかかわからない。

セミナー（＃１ 地域エネルギー）に対する感想

1. 開催結果

- 申込者数：52 名
- 視聴者数：約 30 名

2. アンケート結果（N=12）

- ポジティブな意見
 - 発表内容が分かりやすかった。
 - 具体的事例によって理解が深まった。
 - 具体的な取り組みを基にした講演であったため理解しやすかった。
 - 石油小売会社が再エネ分野に取り組んでいるのが興味深く参考になった。
 - 目指すべき将来像として 3 事例とも好事例でした。
 - 事業の苦労した点等やそれを乗り越えてきた方法等が大変参考になった。
 - 関係者の理解を得るには「粘り強さ」、「正直さ」なのだなと再確認できた。
- 今後の参考となる意見
 - 質問が最後なのか途中で可なのかわからなかった。
 - 今回はよかったが、体調によって長時間のオンライン講座を受けられない。

セミナー（＃２ 金融）に対する感想

1. 開催結果

- 申込者数：82 名
- 視聴者数：約 40 名

2. アンケート結果（N=3）

- ポジティブな意見
 - 地域で活躍されている方々の講演は勇気づけられる。
- 今後の参考となる意見
 - 各地域の取り組みや環境省の考えなどを知りたい。

また、3つのイベントを通して今後聴講を希望するテーマは以下のとおり。

資源循環やカーボンニュートラル、その他脱炭素先行地域の取り組みに関する関心が高く、より多くの地域における「地域循環共生圏（ローカルSDGs）」の普及・推進にむけて、先進地域・事業者の取り組みについて定期的・積極的に情報発信していくと良いと考えられる。

大分類	中分類	テーマ詳細
個別テーマ	気候変動	気候危機について
	SDGs	SDGs関連
		戦争と環境
		人権問題
	地域循環共生圏（ローカルSDGs）	地域循環共生圏とスーパーシティとの連携
		自治体における循環型社会の構築の事例紹介
	カーボンニュートラル（CN）	CN達成のために実行すべき事項の具体例
		CN達成にむけた中小事業者の具体例
		CN技術の実用化に向けた技術開発の現状と今後の課題
		バイオマスの農業利用
	廃棄物、廃プラ	廃プラ対策の具体方策
		他国のプラスチック資源循環官民取り組み事例
		廃棄物エネルギー
		廃棄物処理を用いた地域資源の循環システム
	技術動向	蓄電池の開発現状と見通し
省庁の取り組み	－	みどりの農業システム戦略と環境（農水省との共催）
		エコアクション21の普及にむけて
		省庁をまたいだ動きや都道府県などとの連携
		脱炭素先行地域に関する情報
		環境省方針
その他	－	消費者への啓蒙(各人の選択行動が社会を変える)
		サステナブルファッション

図 32 今後のイベントで聴講を希望するテーマ